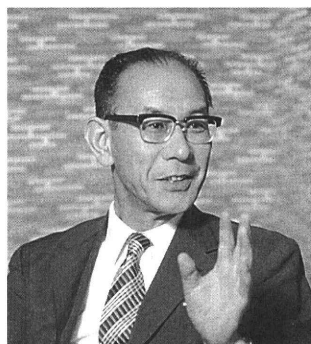


小児歯科医療の過去と現在



日本小児歯科学会名誉会員

落 合 靖 一

■ 略歴

- 昭和24年 3月 東京医学歯学専門学校(現、東京医科歯科大学) 歯学科卒業
- 昭和29年 8月 フルブライト法による留学生として渡米
フォーサイス小児歯科研究所に入所
- 昭和30年 9月 イリノイ州立大学歯学部 大学院(小児歯科学教室)入学
- 昭和35年 3月 医学博士(東京医科歯科大学)
- 昭和42年 1月 東京都新宿区にて小児歯科専門医院開業
- 平成 8年 6月 日本小児歯科学会名誉会員

20世紀も終わり新たな時代を迎えようとしている今日、私たちの小児歯科医療も新しい展開を求めて模索しています。

ご承知のように、わが国の小児歯科は20世紀も半ばを過ぎて初めて活動を始めた、歯科医療のなかではもっとも新しい分野です。しかしながら発足の当初から、おびただしい社会的需要と関係者の熱心な努力や活躍によって、歯科の一分科として確実にその地位を築いてきました。大変だった創設期の活動もどうやら済んで、さらにその上に立った発展期を迎えようとしています。

かつては年間200万人を越える出産があり、その85パーセント以上が3歳までに広範性の齲蝕にかかるという状態でした。これに対して全国の歯科医数は3万人足らず、その中で幼・小児の口腔に関心を示す歯科医はごく僅かにしか過ぎませんでした。少数の小児歯科医がこうした環境下で予防や治療に活動したのが、つい昨日のように思い起こされます。

今や、全国の出産数は120万を割り、さらにいわゆるランパントの齲蝕罹患児は影をひそめました。小児の疾病構造が大きく変わったのです。我々の診療対象は歯だけに限られることなく、その周囲周辺、さらに口腔や顎顔面の発育期にある小児の必要十分なケアにまで、範囲を広げることが出来るようになりました。

かつて小児歯科医を拘束した齲蝕治療から開放されて、今や自由に子供の口腔を中心とした広範囲な医療に取り組めるわけです。基礎的にも臨床的にも、これから研究しなければならないことは多いでしょうが、今後ますますの発展を心から期待するものです。